

1 ミトコンドリア脳筋症について正しいのはどれか。

- a 常染色体優性遺伝形式をとる。
- b トリプレットリピートの延長を認める。
- c 血液検査で乳酸、ビルビン酸値が低下する。
- d 低身長、感音性難聴、知能低下がみられることが多い。
- e 脳病理所見でRagged red fiber（赤色ぼろ線維）がみられる。

2 呼吸器感染症と原因菌の組合せで正しいのはどれか。

- a 膿 胸 _____ クラミジア
- b 市中肺炎 _____ セラチア
- c 院内肺炎 _____ マイコプラズマ
- d 誤嚥性肺炎 _____ 嫌気性菌
- e 間質性肺炎 _____ 黄色ブドウ球菌

3 月経血について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 凝固しない。
- b 月経1日目の出血量が多すぎる。
- c 培養検査は生殖器結核の診断に有用である。
- d 月経2日目までに全体の75%が排出される。
- e 1周期に排出される総量は30 ml以下が正常である。

4 Helicobacter pylori 感染症について正しいのはどれか。

- a グラム陽性球菌である。
- b 除菌治療の成功率は低い。
- c 胃・十二指腸潰瘍患者では感染率が低い。
- d 粘膜関連リンパ組織リンパ腫の原因になる。
- e 日本では高齢者よりも若年者の感染率が高い。

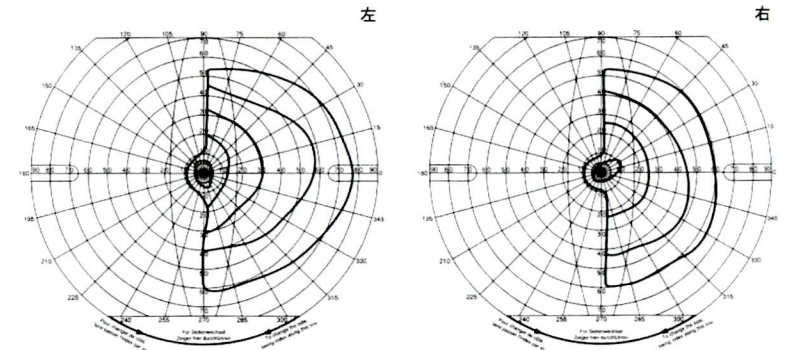
5 誤っているのはどれか。

- a ラ音は心不全徴候の一つである。
- b 甲状腺中毒症は心不全の原因になりうる。
- c 左室駆出率が保たれているので心不全ではない。
- d ACE阻害薬は慢性心不全患者の予後改善効果を期待できる。
- e 心不全の病態生理学的成因のひとつに交感神経活性の亢進がある。

6 視野検査結果を示す。

考えられる責任病巣はどれか。

- a 視 索
- b 視放線
- c 視交叉
- d 後頭葉
- e 外側膝状体



視野検査結果

7 再生不良性貧血について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 無効造血をきたす疾患である。
- b Fanconi 貧血は常染色体優性遺伝である。
- c 骨髄穿刺にて dry tap を認めることが多い。
- d 血中エリスロポエチンは高値を示すことが多い。
- e 40歳未満でHLA 適合同胞ドナーがいる場合は骨髄移植が治療の第一選択である。

8 特発性器質性肺炎で正しいのはどれか。

- a 粘潤な膿性喀痰を伴う咳嗽を呈する。
- b 胸部エックス線検査ではしばしば移動性のスリガラス影を認める。
- c 胸部CT検査ではair bronchogramを伴う浸潤影を認める。
- d 病理組織で膠原病に続発するものと区別ができる。
- e 副腎皮質ステロイド薬に対する反応が乏しい。

9 褐色細胞腫の診断のために行う検査はどれか。2つ選べ。

- a 腹部MRI
- b 腹部造影CT
- c 副腎静脈サンプリング
- d ^{131}I -MIBGシンチグラフィ
- e ^{131}I -アドステロールシンチグラフィ

10 IgA腎症で正しいのはどれか。

- a 血清IgAが低下する。
- b 血清補体価が低下する。
- c 高血圧の持続は予後不良を示す。
- d ネフローゼ症候群で発症することが多い。
- e 免疫グロブリンAが腎糸球体基底膜上皮側に沈着する。

11 成人Still病で見られるのはどれか。2つ選べ。

- a 好中球の増加
- b 血清フェリチン高値
- c 異型リンパ球の増加
- d リウマトイド因子陽性
- e 血清ハプトグロブリン低値

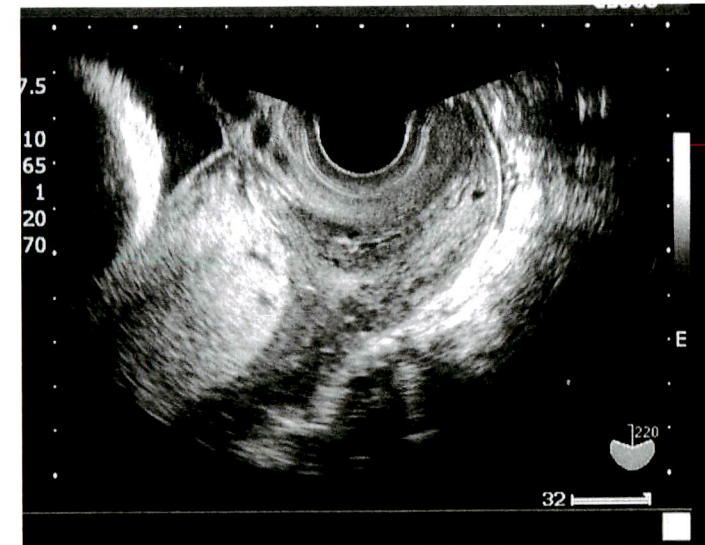
12 糖尿病合併の母体より出生した児の特徴で正しいのはどれか。

- a 児は貧血をきたす。
- b 児は高血糖をきたす。
- c 児は低インスリン血症をきたす。
- d 不可逆的な肥大型心筋症をきたす。
- e 成熟児でも呼吸窮迫症候群をきたす。

13 29歳の経産婦。妊娠32週の妊婦健診時の経膈超音波検査を示す。

正しいのはどれか。

- a 内診をする。
- b 分娩誘発をする。
- c 自己血貯血をする。
- d 母体の血圧測定をする。
- e ただちに帝王切開をする。



経膈超音波検査

14 ベンゼンについて正しいのはどれか。

- a ベンゼンには依存性がある。
- b ベンゼンはガソリンの中にも含まれる。
- c ベンゼンは視神経に強い毒性を有する。
- d ベンゼンの尿中代謝産物は馬尿酸である。
- e ベンゼン曝露により網膜微細動脈瘤が起こる。

15 消化管異物でどこにある場合に必ず摘出が必要か。

- a 食道
- b 胃
- c 十二指腸
- d 小腸
- e 直腸

16 非電離放射線で生ずる障害はどれか。

- a 肺炎
- b 腸炎
- c 食道炎
- d 膀胱炎
- e 皮膚炎

17 Asperger 症候群はどれに含まれるか。

- a チック障害
- b 特異的発達障害
- c 広汎性発達障害
- d 被虐待児症候群
- e 注意欠陥多動性障害 (ADHD)

18 悪性黒色腫を診断するための指標として誤っているのはどれか。

- a 隆起
- b 大きさ
- c 辺縁の性状
- d 拡大の早さ
- e 黒色調の強さ

19 ヘルパンギーナを起こすのはどれか。

- a ヒトパピローマウイルス
- b 水痘・帯状疱疹ウイルス
- c コクサッキーウイルス A 型
- d サイトメガロウイルス
- e アデノウイルス

20 10歳の女児。全身倦怠感を主訴に来院した。2週前から著明な口渇、多飲および多尿をきたしている。数日前から全身倦怠感が出現し、改善しないため受診した。意識は清明。身長 148 cm、体重 24.0 kg。体温 36.5℃。呼吸数 28/分。脈拍 111/分、整。血圧 128/78 mmHg。SaO₂ 98 % (room air)。皮膚のツルゴールは低下している。尿ケトン体 3+。血液生化学所見：随時血糖 385 mg/dl、HbA1c 10.4 % (JDS 値、基準 4.3~5.8)、尿素窒素 15.4 mg/dl、クレアチニン 0.41 mg/dl、Na 133 mEq/l、K 4.9 mEq/l、Cl 98 mEq/l。動脈血ガス分析 (自発呼吸、room air)：pH 7.20、PaCO₂ 18 Torr、PaO₂ 105 Torr、HCO₃⁻ 7.0 mmol/l、BE -18.6 mmol/l。

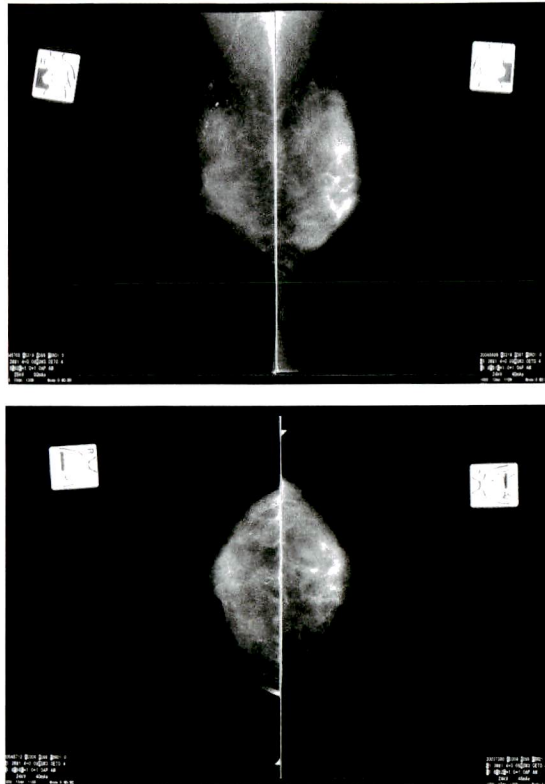
現時点の対応として適切なのはどれか。

- a 生理食塩液の輸液
- b 重炭酸ナトリウムの静注
- c スルホニル尿素薬の処方
- d 特効型インスリンの皮下注
- e 速効型インスリンの大量急速静注

21 46歳の女性。検診マンモグラフィで異常を指摘されたため来院した。自覚症状は無く、触診検査でも両側の乳房に腫瘤を触知しない。両側の腋窩・頸部リンパ節は触知しない。マンモグラフィを撮影した。

診断として考えられるのはどれか。

- a 乳 癌
- b 動脈硬化
- c 乳腺嚢胞
- d 線維線種
- e 葉状腫瘍



マンモグラフィ

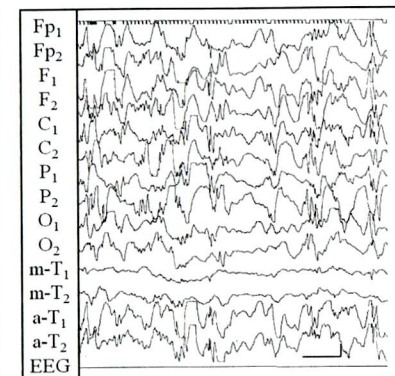
22 5か月の乳児。両上肢を挙上する発作を主訴に来院した。3週間前から1日2、3回、何かに驚いたように両上肢を瞬間的にビクつかせる動作が出現した。発作時意識消失がなく、発作後は笑っていた。発作は連続して8、9回シリーズをなして起こるようになり、これが1日に20回シリーズ以上になった。両上肢の挙上と同時に頭部を前屈する発作となり、不機嫌に啼泣する。意識は清明。体温36.7℃。引き起こし反射で頭部後屈を認め、定頸が遅れている。両側深部腱反射は正常であり、両側Babinski徴候は陽性である。皮膚の写真と脳波を示す。

適切な治療はどれか。

- a 鎮静薬内服
- b ビタミンD内服
- c 迷走神経刺激術
- d ACTH筋肉内注射
- e 筋弛緩薬筋肉内注射



皮膚の写真

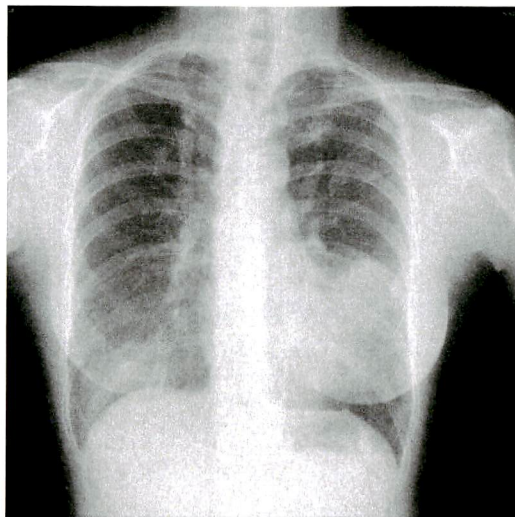


脳波

23 37歳の女性。2日前から呼吸困難と茶褐色の喀痰が出現したため来院した。半年前から喘鳴と呼吸困難が発作性に出現しており近医で気管支拡張薬と吸入ステロイド薬を処方されていた。意識は清明。体温36.8℃。脈拍96/分。血圧114/68 mmHg。全肺野にwheezeを聴取する。血液所見：赤血球390万、Hb 11.2 g/dl、Ht 37%、白血球11,000（桿状核好中球3%、分葉核好中球41%、好酸球28%、好塩基球1%、単球2%、リンパ球25%）、血小板32万、CRP 1.8 mg/dl、IgE 1300 IU/ml（基準170以下）、 β -Dグルカン 31.4 pg/ml（基準0.6未満）であった。胸部エックス線写真を示す。

この疾患について正しいのはどれか。

- a 髄膜炎を合併しやすい。
- b 発症には喫煙が関与する。
- c 喀痰培養で同定されることはない。
- d 胸部CT画像では空洞性病変を認める。
- e 副腎皮質ステロイドの全身投与を行う。

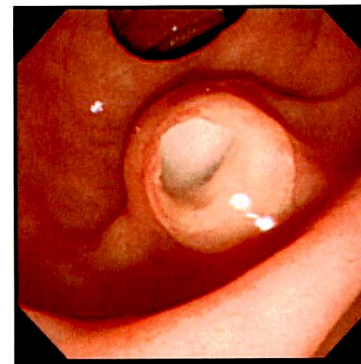


胸部エックス線写真

24 73歳の男性。生来健康であったが、人間ドックで膵臓に嚢胞を認めたため、精査目的で紹介となった。腹部は平坦、軟で圧痛なし。体温36.5℃。血液所見：赤血球460万、Hb 12.3 g/dl、白血球6,500、血小板25万、血液生化学所見：総ビリルビン1.0 mg/dl、AST 25 U/l、ALT 30 U/l、アミラーゼ300 U/l（基準50-160）。内視鏡検査のファーター乳頭部の写真とMRCPの画像を示す。

考えられるのはどれか。

- a 慢性膵炎
- b 膵頭部癌
- c 膵仮性嚢胞
- d 自己免疫性膵炎
- e 膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）



内視鏡検査のファーター乳頭部

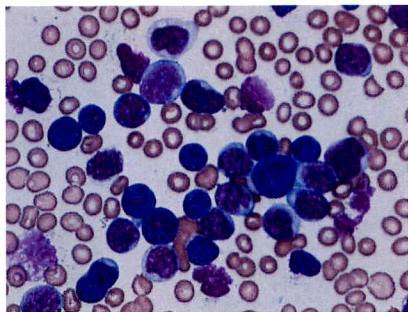


MRCP

25 6歳の女児。数週間からの発熱とだるさを訴えて来院した。皮膚は蒼白、体幹部に点状出血を認める。体温 38.0℃、眼瞼結膜に貧血を認める。肝臓を右肋骨弓下に 4 cm、左肋骨弓下に脾臓を 2 cm 触知する。血液検査所見：赤血球 320 万、Hb 8.6 g/dl、Ht 23 %、白血球 88,000、血小板 4.1 万、AST 40 IU/l、ALT 26 IU/l、LDH 1,600 IU/l（基準 290～600）、Fe 115 μg/dl（基準 80～160）、フェリチン 60 ng/ml（基準 20～120）。骨髓血塗抹 May-Giemsa 染色標本を示す。

行うべき初期治療はどれか。

- a 骨髓移植
- b 脾臓摘出
- c 血小板輸血
- d 大量の輸液
- e 濃厚赤血球輸血



骨髓血塗抹 May-Giemsa 染色標本

26 65歳の男性。口腔内の皮疹を主訴に来院した。1 か月前から出現し、増悪してきた。糖尿病で経口血糖降下薬内服治療中だがコントロール不良である。口腔内の写真を示す。

まずはじめに行うべき検査はどれか。

- a 皮膚生検
- b 細菌培養
- c Tzanck 試験
- d 抗デスモグレイン 3 抗体計測
- e 苛性カリ〈KOH〉直接検鏡法

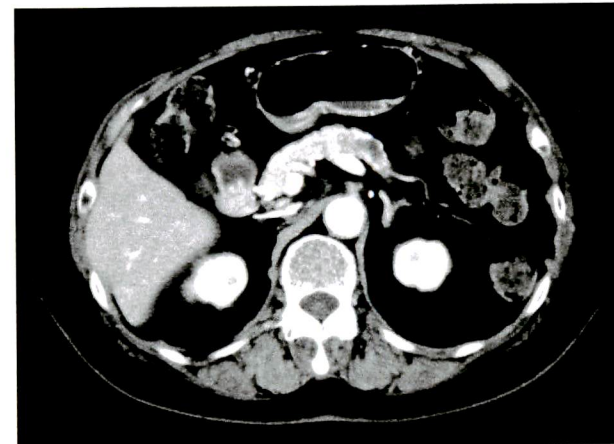


口腔内の写真

27 75歳の男性。3 か月前から上腹部痛が持続するため来院した。血液所見：赤血球 323 万、Hb 13 g/dl。血液生化学所見：TP 7.5 g/dl、Alb 3.8 g/dl、総ビリルビン 2 mg/dl、直接ビリルビン 1.5 mg/dl、AST 32 IU/l、ALT 38 IU/l、ALP 265 IU/l（基準 115～359）、γ-GTP 130 IU/l（基準 9～28）。免疫学所見：CA19-9 230U/ml（基準 37 以下）、CEA 7.5 ng/ml（基準 5 以下）。腹部造影 CT 写真を示す。

診断はどれか。

- a 膵管癌
- b 急性膵炎
- c 慢性膵炎
- d 膵仮性嚢胞
- e 膵内分泌腫瘍

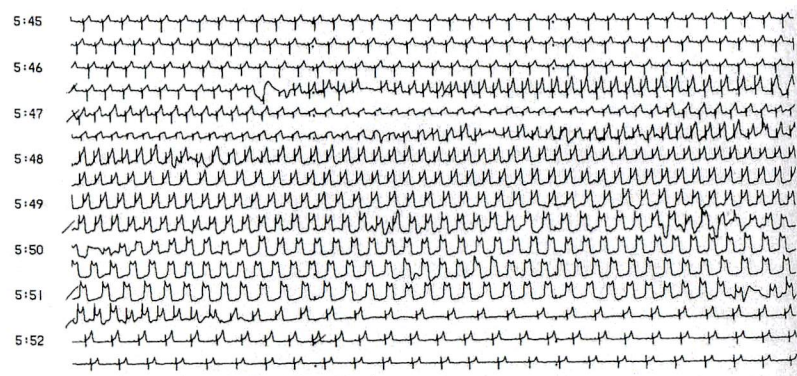


腹部造影 CT 写真

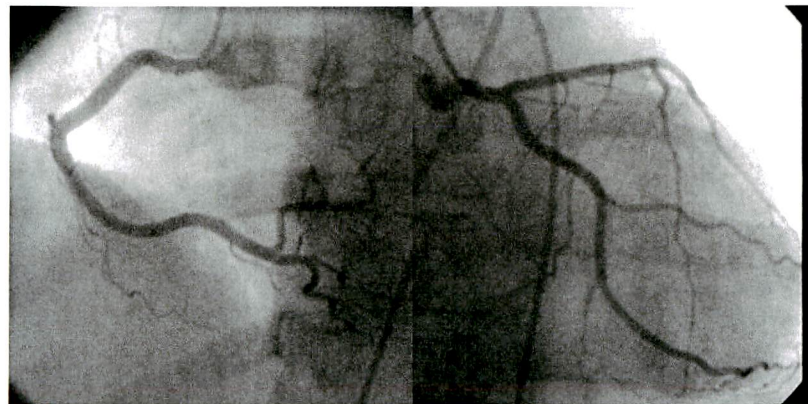
28 52歳の男性。2か月前より夜間から早朝にかけて就寝時に冷汗を伴う胸部圧迫感を自覚するようになった。胸部症状の持続時間は5～10分程度で、昼間の労作時にはみられない。発作時のホルター心電図と硝酸イソソルビド冠注後の冠動脈造影を示す。

正しいのはどれか。

- a 経皮的冠動脈形成術の適応である。
- b 植え込み型除細動器植の適応である。
- c ベータ遮断薬の投与が治療に有用である。
- d 運動負荷で発作が誘発されることはない。
- e エルゴノビン負荷で冠動脈トームスが亢進する。



ホルター心電図

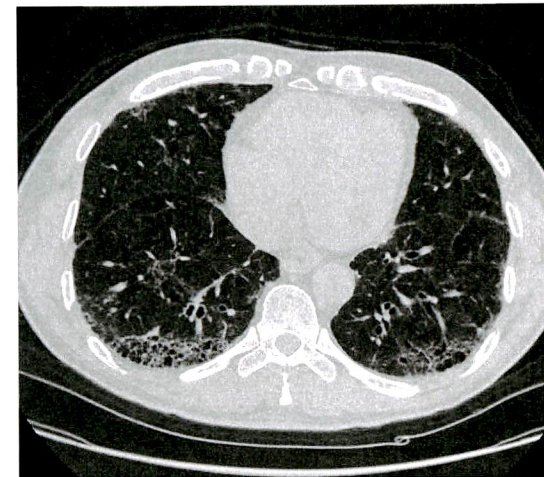


冠動脈造影

29 62歳の男性。乾性咳嗽と徐々に増悪する労作時呼吸困難を主訴に来院した。胸部CT画像を示す。

この患者の呼吸機能検査所見はどれか。

- a % VC 96 %、FEV₁₀ % 64 %、% DLco 62 %
- b % VC 72 %、FEV₁₀ % 87 %、% DLco 95 %
- c % VC 96 %、FEV₁₀ % 64 %、% DLco 95 %
- d % VC 72 %、FEV₁₀ % 87 %、% DLco 62 %
- e % VC 72 %、FEV₁₀ % 64 %、% DLco 95 %



胸部CT

30 40歳の女性。生来健康。朝食を摂らずに出勤したところ、職場で冷汗、動悸、振戦を認めたため来院した。最近、しばしば同様の症状を早朝に自覚していたが、朝食摂取にて症状は消失したという。ブドウ糖を静脈注射したところ冷汗、動悸、振戦は速やかに消失した。

考えにくいのはどれか。2つ選べ。

- a Addison病
- b Basedow病
- c 1型糖尿病
- d インスリノーマ
- e 下垂体前葉機能低下症

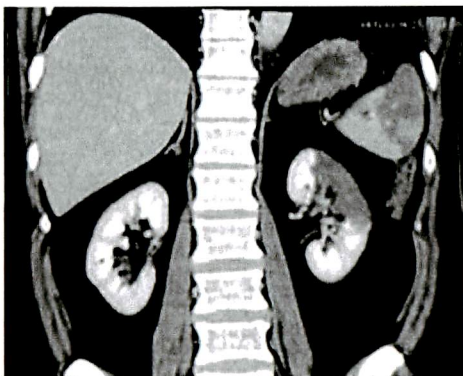
31 45歳の男性。1年前の健康診断にて心房細動を指摘されていたが放置していた。

夜自宅でテレビを見ていたところ、突然左の腰背部痛が出現。安静にて一晚を過ごしたが痛みが増強し、嘔気、嘔吐も出現したため翌日来院した。体温 37.3℃。脈拍 96/分、不整。血圧 150/90 mmHg。心雑音なし。呼吸音異常なし。腹部：平坦、軟、圧痛なし。尿所見：蛋白（±）、糖（-）、潜血（+）、沈渣、白血球 10/1 視野、赤血球 20/1 視野。血液所見：赤血球 460 万、Hb 15.5 g/dl、白血球 12,000、血小板 35 万。血液生化学所見：総蛋白 7.2 g/dl、アルブミン 4.2 g/dl、尿素窒素 30 mg/dl、クレアチニン 1.2 mg/dl、AST 80 IU/l、ALT 95 IU/l、LDH 966 IU/l（基準 176~353）、 γ -GTP 38 IU/l（基準 10~50）、Na 142 mEq/l、K 5.4 mEq/l、Cl 101 mEq/l。

腹部造影CTを示す。

治療薬として適切なものはどれか。

- a 抗菌薬
- b 抗凝固薬
- c 消炎鎮痛薬
- d 結石溶解薬
- e 副腎皮質ステロイド

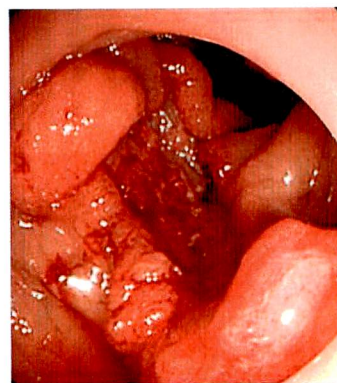


腹部造影CT

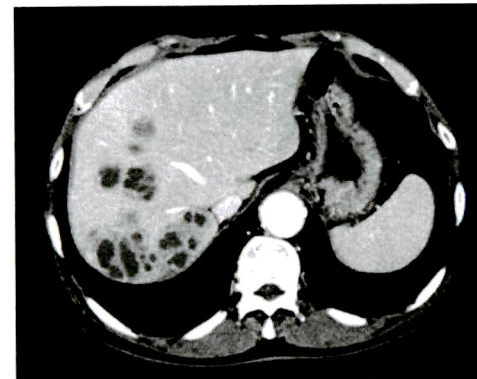
32 48歳の男性。数日間の寛解と増悪を繰り返すイチゴゼリー状の粘血便を主訴に来院した。大腸内視鏡では、S状結腸から直腸にかけてアフタ性のびらんと粘膜浮腫、潰瘍を認めた。腹部造影CTでは、右葉に限局した円形から楕円形の腫瘍陰影を多数認めた。既往歴に特記すべきことはないが、東南アジアへの渡航歴が数回ある。内視鏡写真と腹部造影CTを示す。

この疾患について正しいのはどれか。3つ選べ。

- a HIVの合併がよくみられる。
- b 保存的治療は無効であり適応はない。
- c 血清抗体価の陽性率は95%以上である。
- d 内視鏡による直腸粘膜の生検診断の有用性が高い。
- e 治療は大腸切除および肝右葉切除が第一選択である。



内視鏡写真



腹部造影CT

33 12歳の女児。6か月前より腹痛と下痢を週に3~4日認めており、特に朝に症状が強くて学校に行けないために精査目的で受診となった。経過中に体重減少はなく、食欲不振や発熱もない。腹部診察所見は平坦で軟、腸蠕動はやや亢進しており、臍周囲部に軽度の圧痛を認めた。反跳痛や筋性防御はない。血液検査で炎症反応の上昇はなく、便潜血反応は陰性であった。排便回数は休日になると1日1回で普通便だが、平日は1日3~4回で泥状から水様便となり、排便後は腹痛が軽減する。

最も適切な対応はどれか。

- a 抗菌薬を投与する。
- b 便の細菌検査を行う。
- c 抗不安薬を投与する。
- d 食事指導や生活習慣の改善を行う。
- e 直ちに下部消化管内視鏡検査を行う。

34 14歳の女子。初経はみえていない。1年位前から毎月、月末に数日間続く下腹部痛があるという。
身長 154 cm、体重 48 kg。乳房発育はTanner Ⅲ度、視診上、外陰部に異常所見は認めない。
診断に有用なのはどれか。

- a 腹部MRI
- b 注腸造影
- c 末梢血血算
- d 便潜血検査
- e 末梢血染色体検査

35 66歳の女性。5年前から、無動および歩行障害でドパミン作動薬による治療を受けている。最近歩行障害が悪化したので薬を増やしたところ、「知らない子どもが家の中を歩き回っている」「殺し屋に狙われている。」などと言うようになり、家族に伴われ来院した。身長 148 cm、体重 46 kg。見当識も障害されている。四肢腱反射低下。歩行は前屈みで、両腕の動きもぎこちなく固い。
この患者でまず行うべき薬物調整はどれか。

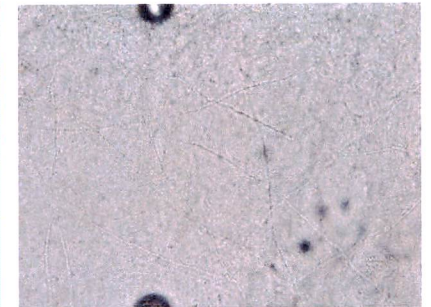
- a 筋弛緩薬を投与する。
- b 抗不安薬を投与する。
- c 現在の薬物を減量する。
- d 抗コリン薬を追加する。
- e 抗精神病薬を投与する。

36 68歳の男性。両足の爪が黄色くなったことを主訴に来院した。この爪と、苛性カリ（KOH）直接検鏡法の所見をそれぞれ写真に示す。
この疾患の治療として正しいのはどれか。

- a 凍結療法
- b 抗真菌薬の外用
- c アシクロビルの内服
- d イオントフォレーシス
- e 副腎皮質ステロイド薬の外用



爪の写真



苛性カリ（KOH）直接検鏡法の所見

37 32歳の女性。くしゃみ、鼻汁および鼻閉を主訴に来院した。3年前から、毎年2月から4月にかけて同様の症状を繰り返していた。症状は外出時に増悪し流涙を伴う。体温 36.4℃。眼球結膜は軽度発赤している。咽頭、扁桃に異常を認めない。心音と呼吸音に異常を認めない。IgE RAST スコア: スギ 3（基準 0）。

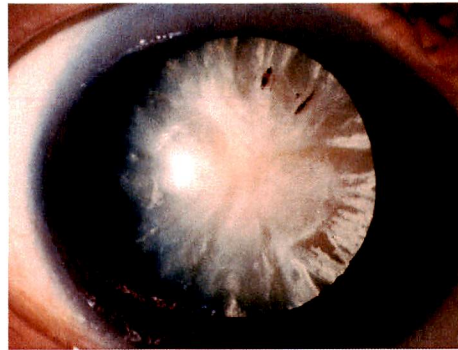
治療薬として適切でないのはどれか。2つ選べ。

- a β 刺激薬
- b 抗コリン薬
- c 抗ヒスタミン薬
- d 副腎皮質ステロイド点鼻薬
- e ロイコトリエン受容体拮抗薬

38 76歳の女性。視力低下を主訴に来院した。数年前から両眼の視力低下を自覚していたが、数日前から右眼がほとんど見えなくなった。視力は右手動弁（矯正不能）、左0.1（矯正不能）。眼圧は両眼とも12 mmHg。散瞳下で眼底検査を行ったが両眼とも詳細な診察が困難である。前眼部写真を示す。

まず行う検査はどれか。

- a 蛍光眼底造影検査
- b 視覚誘発電位
- c 暗順応検査
- d 網膜電図
- e 頭部CT



前眼部写真

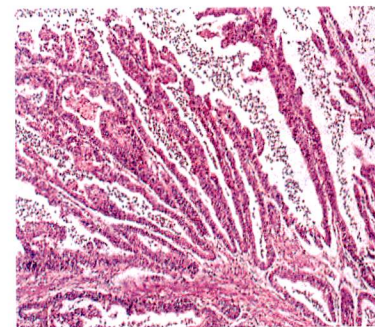
39 70歳の男性。食欲不振と右上腹圧迫感を主訴に来院した。身体診察所見では異常を認めず。血液所見では軽度の貧血を認めるのみであった。血液生化学所見:総蛋白7.0 g/dl、アルブミン4.0 g/dl、LDH 270 IU/l（基準119～229）、尿素窒素16 mg/dl、クレアチニン1.0 mg/dl。免疫学所見:CEA 2.0 ng/ml（基準5.0以下）、CA19-9 25 U/ml（基準37以下）。胃内視鏡写真、胃生検組織標本および腹部CT写真を示す。

正しいのはどれか。2つ選べ。

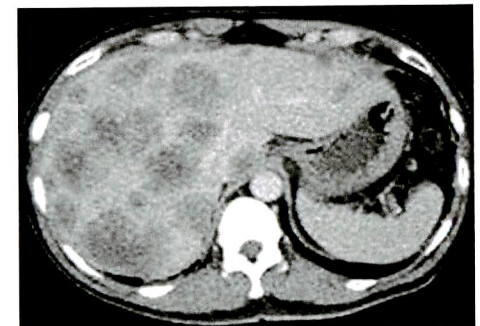
- a 悪性リンパ腫
- b 肝膿瘍
- c 肝転移
- d GIST
- e 胃癌



胃内視鏡写真



胃生検組織標本



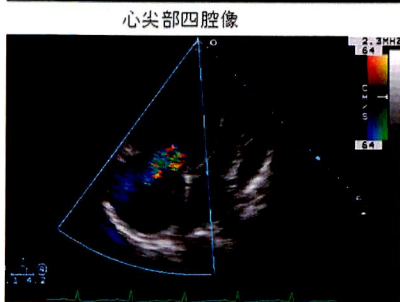
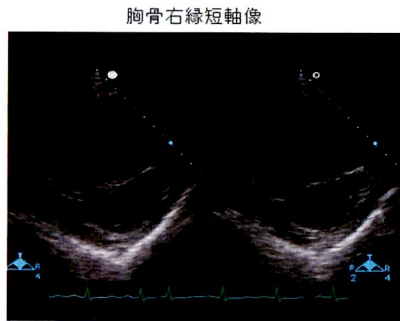
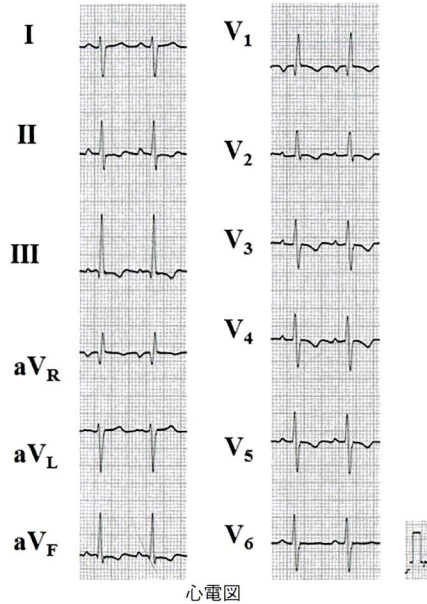
腹部CT写真

40 26歳の女性。生来健康。労作時の呼吸苦と動悸が出現し外来を受診した。

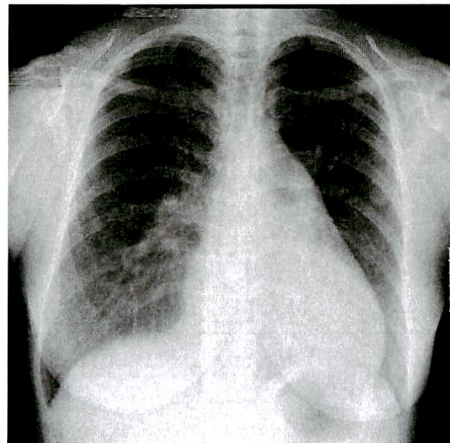
脈拍 100 /分、整。血圧 106/70 mmHg。身体所見では頸静脈怒張、胸骨左縁第2肋間でⅡ音の亢進を認めた。心電図、胸部エックス線写真、心エコー図を示す。

この患者に認められない所見はどれか。

- a 肺動脈楔入圧の上昇
- b 肺動脈圧の上昇
- c 三尖弁逆流症
- d 右房圧の上昇
- e 右室の拡大



心エコー図



胸部エックス線写真

41 35歳の男性。10日前に37℃台の発熱、咽頭痛、頭痛、咳を認めたが安静のみで改善した。3日前から両手掌のしびれ感を自覚し、昨日から駅の階段を昇りづらくなり、走ることもできなくなったため来院した。

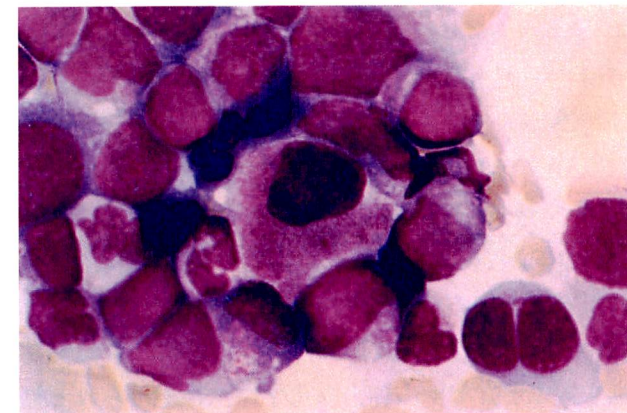
優先度の低い検査はどれか。

- a 脳波
- b 頸髄MRI
- c 腰椎穿刺
- d 誘発筋電図
- e 抗ガングリオシド抗体

42 82歳の女性。1年前より全身倦怠感を自覚したため近医を受診した。その際の血液検査で汎血球減少を指摘されていたが放置していた。1週間より四肢に紫斑を認めるようになり、全身倦怠感が増悪したため来院した。体温 36.2℃。脈拍 90/分、整。血圧 135/92 mmHg。呼吸音に異常を認めない。血液所見:赤血球 274 万、Hb 7.0 g/dl、Ht 22.2 %、白血球 19,200 / μ l (好中性骨髄球 2 %、好中性後骨髄球 5 %、桿状核好中球 6 %、分葉核好中球 8 %、単球 3 %、好塩基球 2 %、リンパ球 11 %、芽球 63 %)、血小板 4.6 万/ μ l。骨髄染色体検査ではモノソミー7を分析細胞 20 個中 12 個に認めた。骨髄塗抹 Wright-Giemsa 染色標本を示す。

最も考えられる疾患はどれか。

- a 急性リンパ性白血病
- b 急性前骨髄球性白血病
- c 慢性骨髄性白血病より移行した急性骨髄性白血病
- d 骨髄異形成症候群より移行した急性骨髄性白血病
- e 慢性単球性白血病より移行した急性骨髄性白血病



骨髄塗抹 Wright-Giemsa 染色標本

43 50歳の男性。就寝中のいびきと呼吸停止を家族に指摘され来院した。最近、仕事中の眠気がひどく、だるさや注意力の低下を自覚している。既往歴は特記すべきことはない。身長 167 cm、体重 92 kg。ポリソムノグラフィーにて、無呼吸低呼吸指数が 54 回/時間であった。

この患者の疾患について誤っているのはどれか。

- a 体重を減らすよう指導する。
- b 飲酒は増悪因子となりうる。
- c 動脈硬化のリスクファクターとなる。
- d 在宅で睡眠中に経鼻的持続陽圧呼吸療法を行う。
- e 睡眠の質を良くするため、睡眠導入剤を投与する。

44 40歳の女性。多飲と多尿を主訴に来院した。

約半年前から口渇感が強く、夜間に何度も尿意を催すため、睡眠不足になっている。身長 155 cm、体重 55 kg。体温 37.0℃。脈拍 70/分、整。血圧 112/70 mmHg。心音、呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で肝脾を触知しない。尿量：5,000 ml/日。

血液検査所見：白血球 6,700、赤血球 324 万、Ht 45 %、Hb 13.5 g/dl、血小板 36 万。尿素窒素 27 mg/dl、クレアチニン 0.9 mg/dl、尿酸 8 mg/dl、Na 140 mEq/l、K 3.8 mEq/l、Cl 102 mEq/l、随時血糖 86 mg/dl、HbA1c 4.5 %。尿所見：浸透圧 30 mOsm/l（基準 50～1,300）、比重 1.002（基準 1.005～1.030）、尿蛋白（-）、尿糖（-）。

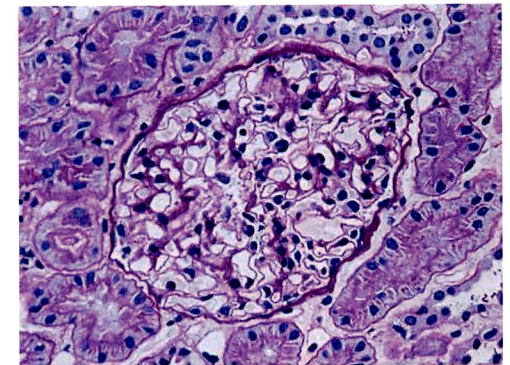
次に行う検査として適切でないのはどれか。

- a 頭部MRI
- b 75gOGTT
- c 血漿浸透圧
- d 高張食塩水試験
- e バソプレシン感受性試験

45 27歳の女性。全身浮腫を主訴に来院した。5日前から顔面と下腿とに浮腫が出現し、急速に増悪してきた。現在までに体重が 8 kg 増加した。身長 158 cm、体重 62 kg。体温 36.0℃。脈拍 78/分、整。血圧 108/72 mmHg。全身浮腫が高度である。尿所見：蛋白 4 +、糖（-）、潜血（-）。血液生化学所見：総蛋白 5.1 g/dl、アルブミン 2.3 g/dl、総コレステロール 330 mg/dl、尿素窒素 36 mg/dl、クレアチニン 0.8 mg/dl、尿酸 8.2 mg/dl、Na 138 mEq/l、K 4.4 mEq/l、Cl 100 mEq/l。腎生検のPAS染色標本を示す。

この患者の尿所見としてみられないのはどれか。

- a 尿比重 1.030
- b 尿蛋白 4.0 g/日
- c 尿沈渣で脂肪円柱
- d 尿Na濃度 60 mEq/l
- e 尿NアセチルβDグルコサミニダーゼ 20 U/l（基準 0 - 10.9）

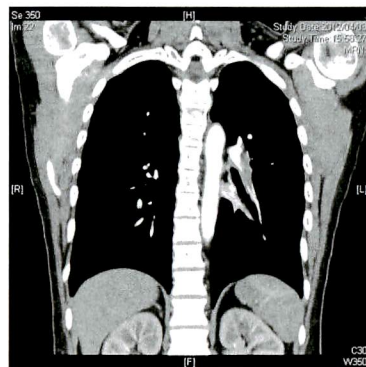


腎生検のPAS染色標本

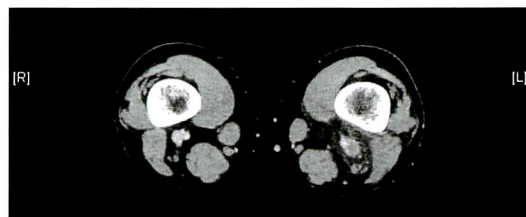
46 21歳の男性。左下腿浮腫を主訴に来院した。約10年前から全身性エリテマトーデスにて通院中である。2週前に左膝の屈側に疼痛が出現した。5日前より左下腿に浮腫が出現し、徐々に増悪した。昨日から左下腿の疼痛と熱感を自覚している。SpO₂ 95% (room air)。血液所見：赤血球424万、Hb 13.2 g/dl、Ht 38%、白血球9,100、血小板7.4万。FDP 31.5 μg/ml (基準5未満)、Dダイマー12.3 μg/ml (基準1未満)。免疫学所見：CRP 5.9 mg/dl。胸部造影CTと両大腿造影CTを示す。

診断に有用な検査はどれか。

- a 抗好中球細胞質抗体
- b 抗セントロメア抗体
- c 抗リン脂質抗体
- d 抗RNP抗体
- e 抗SS-A抗体



胸部造影CT

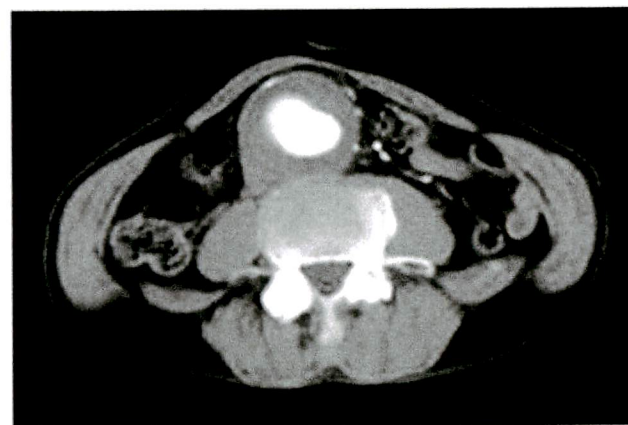


両大腿造影CT

47 72歳の男性。突然の右下腿から足部の疼痛を主訴に来院した。10年前から高血圧に対して内服加療中である。禁煙指導をされているが15本/日の喫煙を行っている。来院時、意識は清明。身長160 cm、体重56 kg。体温36.2℃。脈拍64 /分、整。血圧160/80 mmHg。外傷や手術治療の既往はない。外来で施行された腹部造影CTを示す。

この疾患で正しいのはどれか。

- a アジア地域に好発する。
- b HLA-B51の保有率が高い。
- c 形状が、紡錘状より嚢状のほうが破裂しやすい。
- d マントルサインを認める場合は破裂しやすい。
- e 血管雑音が聴取される場合は破裂しやすい。



腹部造影CT

48 1歳8か月の男児。4日前から39℃の発熱が続き、2日前から目が真っ赤になり、唇が赤くなって荒れている。近医で川崎病の疑いがあると言われ紹介受診となる。体幹に不定形の発疹を認める。咳や鼻汁はみられない。

川崎病と診断するために必要なのはどれか。2つ選べ。

- a 手足の診察
- b BCG接種歴
- c 炎症反応の確認
- d 心臓超音波検査
- e 頸部リンパ節の診察

49 32歳の女性。妊娠39週で経陰分娩10日後に腹痛、出血を主訴に受診した。

体温36.5℃。脈拍75/分。血圧110/65。血液検査で白血球8,000、CRP 0.5 mg/dlであった。子宮底は恥骨と臍部の中央に触れ、内診所見で子宮口は一指開大し、凝血の排出を認める。両側の乳房は緊満し、圧痛を認めるが発赤はない。

初期治療で投与が必要なのはどれか。

- a 抗菌薬
- b 止血薬
- c 鎮痛薬
- d 子宮収縮促進薬
- e 乳汁分泌抑制薬

50 40歳の男性。機械製作工場に就職後、配送部門で働いていたが、1年前より機械組み立て部門に配属された。手持ち振動工具であるインパクトレンチを使用している。右手のしびれを訴えたので、上司の紹介で産業医受診となった。

産業医の指示として適切でないのはどれか。

- a 作業場の騒音を測定するように指示する。
- b 防振手袋の使用を確認するように指示する。
- c 振動作業を行わない日を設けるように指示する。
- d 一日の振動作業時間を確認するように指示する。
- e 振動作業後は冷水で手を冷やすように指示する。

51 83歳の女性。大腿骨頸部骨折の術後感染のため7日前から抗菌薬にて治療されている。昨夜から水様性、淡黄色の下痢を認めた。排便回数は5回/夜、血液の混入は無い。身長158cm、体重45kg。脈拍92/分、整。血圧114/80mmHg。皮膚はやや乾燥している。腹部は平坦で、圧痛、反跳痛および筋性防御は認めない。血液所見：赤血球420万、Hb 12.5g/dl、Ht 42%、白血球10,600。血液生化学所見：総蛋白6.2 g/dl、アルブミン3.2 g/dl、尿素窒素16mg/dl、クレアチニン1.0 mg/dl。CRP 3.0 mg/dl。早朝の水様便の鏡検で、グラム陽性球菌が多数認められた。

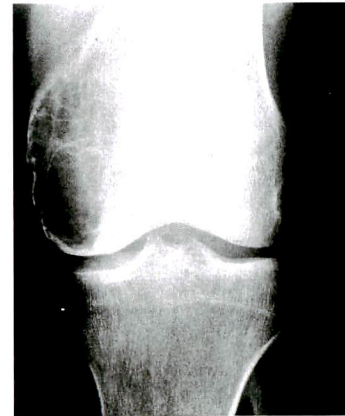
あてはまるのはどれか。2つ選べ。

- a 偽膜性腸炎が疑われる。
- b 院内感染の疑いがある。
- c 糞便中のCD抗原が陽性である。
- d 注腸造影検査にて大腸壁に嚢状の突出像が認められる。
- e メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）による腸炎が疑われる。

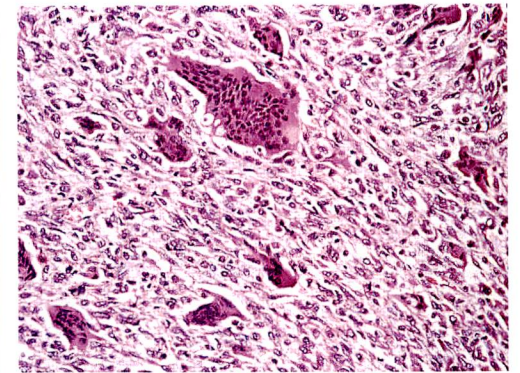
52 15歳の男子。右膝痛を主訴に来院した。3週前、バスケットボールをした際に突然右膝痛が出現した。安静によって一時軽快したが、1週間前から痛みが再発し増悪傾向にある。初診時の右膝エックス線写真と大腿骨遠位部の骨生検PAS染色標本を示す。

診断はどれか。

- a 骨肉腫
- b 軟骨肉腫
- c 骨巨細胞腫
- d Ewing肉腫
- e 悪性線維性組織球腫



右膝エックス線写真



骨生検PAS染色標本

53 35歳の女性。朝起きてこないため、家族が寝室に行ってみると倒れている患者を発見し救急要請した。患者の周囲には空になった処方薬が多量にあった。既往歴ではうつ病で3年前から精神科に通院中。救急隊到着時、患者は昏睡状態であった。救急車内の心電図モニターではQRS時間とQTc時間の延長を伴う洞性頻脈を認めた。

考えられる中毒物質は何か。

- a アセトアミノフェン
- b 三環系抗うつ薬
- c テオフィリン
- d 青酸化合物
- e 有機リン

54 30歳の女性。1年ほど前より左の肩から上肢にかけて痛みが出現。その後、左手で触れたものの熱さや冷たさが分かりにくくなった。既往歴に特記すべきものなし。診察上、左前腕から指先にかけて温痛覚鈍麻を認めた。頭頸部単純MRIのT2強調矢状断像を示す。

所見はどれか。2つ選べ。

- a 二分脊椎
- b 脊髓空洞症
- c くも膜嚢胞
- d Chiari奇形
- e Dandy-Walker奇形

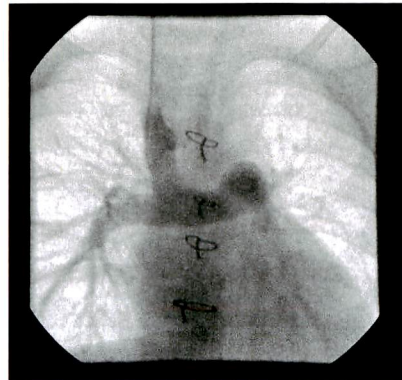


頭頸部単純MRIのT2強調矢状断像

55 1歳の男児。単心室と診断され、これまで1か月および4か月時に心臓手術を受けた。11か月時に行った上大静脈造影を示す。

正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 上大静脈と右心房の圧はほぼ等しい。
- b 上大静脈と肺動脈の圧がほぼ等しい。
- c 動脈血酸素飽和度はほぼ100%である。
- d 4か月時に行った手術はBlalock-Taussig短絡手術である。
- e 最終的にはFontan手術を目指す。



上大静脈造影

56 35歳の専業主婦。家事が全くできないことを主訴に来院した。6週前、大型トレーラーの衝突により家屋が半壊し、外傷を負った。2歳になる子供は柱の下敷きとなり死亡した。その後は夜も全く眠ることができず、自身の意思に反して事故の光景が繰り返し目に浮かび、常に強い不安と恐怖を感じるようになった。

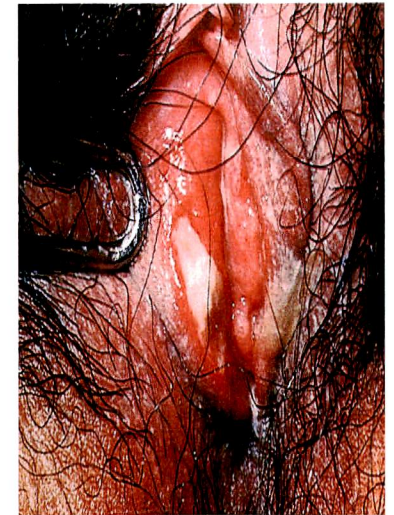
考えられるのはどれか。

- a 適応障害
- b 強迫性障害
- c パニック障害
- d 全般性不安障害
- e 外傷後ストレス障害

57 31歳の女性。数週前より40℃の発熱を認め、陰部および口腔内に潰瘍が、顔面に毛包炎が出現した。近医で数種類の抗生薬を投与されたが軽快しなかった。陰部の写真を示す。

この疾患によく認められる症状はどれか。3つ選べ。

- a 脱毛
- b 結節性紅斑
- c 光線過敏症
- d ぶどう膜炎
- e 血栓性静脈炎



陰部の写真

58 4歳の男児。4日前から右側鼻孔より黄褐色の悪臭ある鼻漏と右側鼻閉とが持続している。発熱・食欲不振はなく、顔面の腫脹も認められず、元気である。

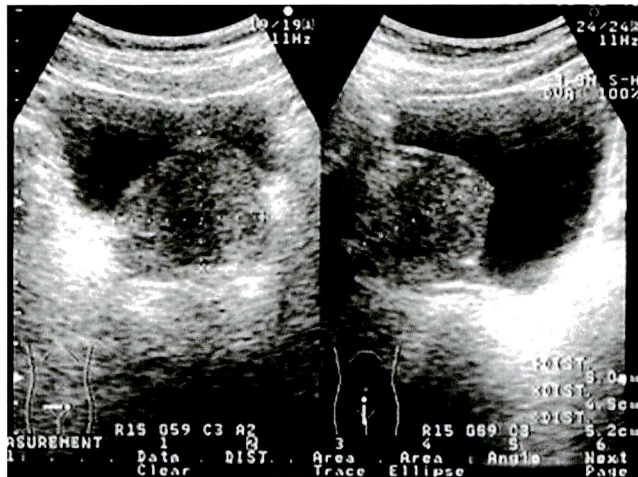
診断はどれか。

- a 鼻腔異物
- b 慢性副鼻腔炎
- c 上顎骨髄炎
- d 上顎洞癌
- e 副鼻腔真菌症

59 64歳の男性。2年前からの夜間頻尿と尿意切迫を主訴に来院した。直腸診で前立腺は鶏卵大で表面は平滑、硬結や圧痛は認めない。尿所見に異常は認めない。腹部超音波写真を示す。前立腺の長径は50 mm、短径は45 mm、前後径は52 mmであった。

正しい対応はどれか。2つ選べ。

- a 尿培養
- b PSA測定
- c 前立腺生検
- d 膀胱内圧測定
- e 国際前立腺スコアによる問診



腹部超音波写真

60 35歳の男性。見えづらさを主訴に来院した。眼底写真を示す。

確定診断に必要な検査はどれか。2つ選べ。

- a 視野検査
- b 眼圧検査
- c 網膜電図
- d 視覚誘発電位
- e 蛍光眼底造影検査



眼底写真